

## 基準3 教員及び教育支援者

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①：教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況) 本校の一般科目担当教員の現員は、常勤24名、非常勤35名であり(前出資料2-2-②-1及び資料3-1-①-1)、科目別教員配置は、教育課程を踏まえ、教養科において審議・決定されている。一部は、より適切な教育を学生に提供するため非常勤講師に依頼している。

資料3-1-①-1：教養科非常勤講師一覧表

## 教養科

## ■非常勤講師

■学位等	■氏名	■担当教科目	■備考
	赤羽 徹	生物	沼津工業高等専門学校名誉教授
	伊藤 匡穎	数学B	
	稲 伸博	数学B	
	鈴木 伸宏	数学B	
比較文化修士	井上 朋子	総合英語	
	佐藤 静枝	英語W・国際理解	
	中村 稔	総合英語・国際理解	
教育学修士	辻 直人	総合英語・国際理解	英語塾経営
修士(考古学)	野上・マスリエ・ニコル	国際理解	
修士(独語・独文学)	杉山 和子	ドイツ語・国際理解	
	柴田 和子	音楽	
	大塚 節夫	美術	
文学修士	神田 朝美	国語	
	諏訪 睦生	古典・文学特論	
	高澤 啓子	日本語(留学生対象)	
	高橋 豊	化学	
薬学博士	斉藤 慎一	化学	
工学博士	勝澤 英夫	化学	
客員教授	垂石 公司	物理・現代物理学・応用物理	沼津工業高等専門学校名誉教授

	丹波 之宏	物理・応用物理	
	鈴木 静恵	歴史	
	藤井 靖士	歴史	
	八十川 徹	地理学特論	
修士(経済学)	榎 満信	経済学	
法学修士	清水 雅彦	法学	
	片山 孝	保健	
客員教授	勝又 瑛逸	体育	沼津工業高等専門学校名誉教授
	丸川 岳浩	体育	
	村山 勝	体育	
	鈴木 みち代	体育	
	アンソニー・ダンフィ ー	英語C	
	アンドレアス・バウマ ン	ドイツ語	日本大学国際関係学部助教
	アン・メイン	国際理解	
	デービット・トレーナ ー	国際理解	
	ベンジャミン・ギャベ ル	国際理解	

(出典：本校公式ウェブサイト)  
[http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin\\_G.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_G.htm)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。現在の定員配置は、きめ細かい教育を実現するためには若干不十分ではあるが、一部の科目を非常勤講師に依頼することにより、概ね適切な教員配置となっている。

**観点 3-1-②：教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況) 本校の専門科目担当教員の現員は、機械工学科常勤12名・非常勤10名、電気電子工学科常勤12名・非常勤6名、電子制御工学科常勤11名・非常勤7名、制御情報工学科常勤11名・非常勤7名、物質工学科常勤12名・非常勤5名の合計常勤58名・非常勤35名であり(資料：3-1-②-1)，科目別教員配置は教育課程を踏まえ、各学科等において審議・決定されている。一部は、より適切な教育を学生に提供するため非常勤講師に依頼している。

## 資料 3—1—②—1 : 専門学科常勤・非常勤教員一覧表

## 機械工学科

## ■教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)	■校務分担
教授	工学博士	<a href="#">柳田 武彦</a>	熱力学・伝熱工学(伝熱工学)	
教授	工学博士	<a href="#">黒下 清志</a>	水力学・油空圧工学(流体工学)	
教授	工学博士	<a href="#">大賀 喬一</a>	機械工作法・塑性力学(塑性加工学)・図学	機械工学科長, 実習工場長, サブネット総括責任者
教授	工学博士	<a href="#">岩谷 隆史</a>	材料力学・弾性力学(材料力学)	専攻科企画運営委員
教授	博士(工学)	<a href="#">西田 友久</a>	材料力学・トライボロジー, 機械設計製図(材料力学)	教務主事補, 実習副工場長
助教授		<a href="#">宮内 太積</a>	機械設計製図・工業力学(機械力学)	学生主事補
助教授	博士(工学)	<a href="#">小林 隆志</a>	電子計算機・数値解析(計算力学)	
助教授	工学修士	<a href="#">井上 聡</a>	金属材料学・機械設計製図(合金設計)	M3 担任
助教授	工学博士	<a href="#">村松 久巳</a>	情報工学・振動工学(流体工学・音響工学)	M5 担任
助教授	博士(工学)	<a href="#">三谷 祐一郎</a>	プログラム演習・数値制御・自動制御(制御工学)	サブネット管理者, M4 担任
助手	修士(工学)	<a href="#">永禮 哲生</a>	機械設計製図・機械計測(切削工学)・機械要素学	寮務主事補, 前期寮監代行
助手	博士(工学)	<a href="#">新富 雅仁</a>	機械設計製図・熱力学(燃焼工学)	学生主事補

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan\\_M.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_M.htm)

## ■非常勤講師

■学位等	■氏名	■担当教科目	■備考
工学博士 客員教授	上田 雅信	塑性力学	
工学博士 客員教授	楠井 直樹	機械設計法	元沼津工業高等専門学校教授
客員教授	田中 勝爾	電子計測	(株)ニューフレアテクノロジー品質保証部 FS 管理グループ
	大場 康正	電子工学	国産電機(株)技術本部技術管理センター
工学修士	井戸 章雄	流体機械	(株)電業社機械製作所技術研究所

客員教授	伊良 博史	機構学	
工学修士 客員教授	相磯 勝宜	機械設計製図	
客員教授	垣花 亮	経営工学	
Ph. D 客員教授	中山 顕	エネルギー工学	静岡大学工学部教授
客員教授	井下 芳雄	メカトロニクス	エミック(株)技術部

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin\\_M.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_M.htm)

### 電気電子工学科

#### ■教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)	■校務分担
教授	博士(工学)	<a href="#">若松 勝寿</a>	電磁気・回路理論(放電・高電圧工学)	
教授		<a href="#">平林 紘治</a>	固体電子工学・回路理論(電子材料)	
教授	工学博士	<a href="#">濱屋 進</a>	通信工学・マイクロ波工学・情報理論(マイクロ波工学)	副校長(教務主事)
教授	工学修士	<a href="#">高橋 儀男</a>	回路網理論・電気電子計測・CAD・回路シミュレーション演習(電気機器)	情報処理教育センター長, サブネット総括責任者
教授	工学修士	<a href="#">江間 敏</a>	電力工学・パワーエレクトロニクス・電磁気学(電力工学)	電気電子工学科長, サブネット総括責任者
助教授		<a href="#">加藤 繁</a>	直流回路・電子回路(計算機工学)	学生主事補, E3 担任
助教授	工学修士	<a href="#">高野 明夫</a>	制御工学・自動制御・電気電子機器(パワーエレクトロニクス, 電動機制御)	E4 担任
助教授	博士(工学)	<a href="#">望月 孔二</a>	電子回路・電子材料・電子回路設計(電子回路)	専攻科企画運営委員, E5 担任
助教授	工学修士	<a href="#">加藤 賢一</a>	情報処理基礎・コンピュータ工学(電気回路)	基幹ネット管理者, サブネット管理者
助教授	博士(工学)	<a href="#">西村 賢治</a>	ロジック回路・気体電子工学(プラズマ工学)	教務主事補
助教授	博士(工学)	<a href="#">嶋 直樹</a>	プログラミング・デジタル信号処理(電波物理解)	寮務主事補, 前期寮監代行, 情報処理教育副センター長, 基幹ネット管理者
助手	修士(工学)	<a href="#">真鍋 保彦</a>	情報処理基礎(情報処理)	サブネット管理者

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan\\_E.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_E.htm)

## ■非常勤講師

■学位等	■氏名	■担当教科目	■備考
客員教授	越智 幹汎	現代制御理論	
工学修士 客員教授	富川 和人	図学・製図	東芝機械(株)技術開発部参与
	小森 憲昭	新エネルギー工学	
	山崎 利栄	新エネルギー工学	
	畠野 耕平	オプトエレクトロニクス	
	松坂 孝	工業英語	技術士事務所トーテック所長

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin\\_E.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_E.htm)

## 電子制御工学科

## ■教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)	■校務分担
教授	工学博士	<a href="#">森井 宜治</a>	電磁気学・環境学基礎・工学数理特論・量子力学(応用物理)	専攻科長
教授	工学博士	<a href="#">舟田 敏雄</a>	工学数理・計算機力学(数理工学)	電子制御工学科長, サブネット総括責任者
教授	工学博士	<a href="#">澤 洋一郎</a>	制御工学・工業英語・制御システム設計(ロボット工学)	
教授	工学修士	<a href="#">長澤 正氏</a>	計算機工学・線形回路解析(通信工学)	D5 担任
助教授	博士(理学)	<a href="#">牛丸 真司</a>	UNIX 入門・システム制御工学・電子機械設計製作(大気物理学)	基幹ネット管理者
助教授	工学修士	<a href="#">川上 誠</a>	電気回路・電子回路・ロボット工学演習(画像処理・電子回路)	教務主事補
助教授	博士(工学)	<a href="#">遠山 和之</a>	計算機基礎・回路理論・電子材料(誘電・絶縁材料)	学生主事補, 専攻科企画運営委員
助教授	博士(工学)	<a href="#">鄭 萬溶</a>	工学数理演習・工業英語・プログラミング言語 Java(振動工学)	サブネット管理者, D4 担任
助教授	博士(工学)	<a href="#">大原 順一</a>	工業熱力学・情報処理基礎演習・電子機械設計製作(伝熱工学)	学生主事補, 学生会顧問, D3 担任
助手	修士(工学)	<a href="#">大庭 勝久</a>	プログラミング入門・C 言語基礎演習・電子回路演習(流体工学)	寮務主事補, 後期寮監代行

助手	博士(工学)	<a href="#">江上 親宏</a>	電子制御工学実験,工学数理演習(関数微分方程式)	寮務主事補
----	--------	-----------------------	--------------------------	-------

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan\\_D.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kyoukan_D.htm)

■非常勤講師

■学位等	■氏名	■担当教科目	■備考
	水野 充	図学・電気機械製図	
客員教授	大日方 一郎	集積回路工学	(株)日立コミュニケーションテクノロジー キャリアネットワーク事業部
客員教授	浅井 登	人工知能	(株)富士通インフォソフトテクノロジー 第三開発統 部長
客員教授	松坂 孝	専攻科技術英語・品質マネジメント工学・工業熱力学・計測工学	技術士事務所トーテック所長
理学博士 客員教授	三谷 哲也	計測工学	矢崎総業(株)技術開発センター企画 部主管
客員教授	小林 幸也	計算機工学Ⅱ・情報工学	元沼津工業高等専門学校教授
客員教授	山岸 昭英	材料力学・機械要素	国立和歌山工業高等専門学校名誉教授

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin\\_D.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/hijoukin_D.htm)

制御情報工学科

■教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)	■校務分担
教授	工学博士	<a href="#">柳下 福蔵</a>	加工学・振動工学・計測工学(精密加工学)	地域共同テク/センター長
教授	工学博士	<a href="#">大島 茂</a>	メカトロニクス・設計工学・創造設計・流体応用工学(水圧・油圧工学)	制御情報工学科長, サブネット総括責任者
教授	工学修士	<a href="#">吉野 龍太郎</a>	創造設計・システム工学・ロボット工学(ロボット工学)	S5 担任
教授	工学博士	<a href="#">長谷 賢治</a>	自動制御・制御工学・数理計画法・創造設計(制御工学)	教務主事補, S4 担任
助教授		<a href="#">大澤 和夫</a>	データベースシステム・機械・電気製図(情報処理・内燃機関工学)	寮務主事補, 前期寮監代行
助教授	工学修士	<a href="#">鈴木 茂樹</a>	プログラミング・電子計算機・計算機シミュレーション(信号処理)	サブネット管理者, S3 担任

助教授	博士(情報工学)	<a href="#">藤尾 三紀夫</a>	図形処理・情報処理・制御情報工学演習 (CG・CAD/CAM)	専攻科企画運営委員
助教授	博士(情報工学)	<a href="#">佐竹 利文</a>	人工知能・オペレーティングシステム・制御情報工学演習(生産システム)	
助教授	博士(工学)	<a href="#">芹澤 弘秀</a>	電気回路・電磁気学・制御情報工学演習・ データ通信(電波工学)	
講師	博士(情報科学)	<a href="#">鈴木 康人</a>	プログラミング・制御情報工学演習・情報数理(情報論理)	学生主事補
助手	博士(工学)	<a href="#">大久保 進也</a>	計算機入門・電子回路・制御情報工学演習 (情報 通信工学・光情報工学)	寮務主事補, 前期寮監代行

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/kyoukan\\_S.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/kyoukan_S.htm)

■非常勤講師

■学位等	■氏名	■担当教科目	■備考
博士(工学)	小久保光典	精密工学	東芝機械(株)微細転写事業部主幹
客員教授	丸山 公孝	材料工学	芝浦産業(株)材料分析センター部長
工学修士	井戸 章雄	流体力学	(株)電業社機械製作所研究開発グループ
工学博士 客員教授	影山 学	数値解析・熱統計力学	沼津工業高等専門学校名誉教授
客員教授	垣花 亮	生産システム工学	
理学博士 客員教授	垂石 公司	電磁気学	沼津工業高等専門学校名誉教授
理学修士	山口 武志	情報数理Ⅰ・情報数理Ⅲ	

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/hi\\_joukin\\_S.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/hi_joukin_S.htm)

物質工学科

■教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)	■校務分担
教授	農学博士	<a href="#">加藤 美知代</a>	生物化学・遺伝子工学・細胞工学(育種工学)	
教授	工学博士	<a href="#">瀬尾 邦昭</a>	有機化学(有機合成化学)	
教授	理学博士	<a href="#">瀧洞 允紘</a>	物理化学・材料物性化学・触媒工学(物理化学)	

教授	理学修士	<a href="#">望月 明彦</a>	分析化学・分析化学実験・機器分析(分析化学・考古化学)	教務主事補
教授	博士(工学)	<a href="#">蓮實 文彦</a>	微生物学・培養工学・微生物学実験(応用微生物学・酵素化学)	物質工学科長, 地域共同テクノ副センター長, サブネット総括責任者
教授	薬学博士	<a href="#">芳野 恭士</a>	細胞工学・薬理学・生物工学実験(生物化学・生物系薬学)	専攻科企画運営委員
助教授	博士(工学)	<a href="#">渡辺 敦雄</a>	化学工学 2,3・安全工学・環境工学・環境安全工学(化学工学, 安全工学)	
助教授	博士(工学)	<a href="#">押川 達夫</a>	有機化学・有機材料化学・グリーンケミストリ(有機化学)	学生主事補
助教授	博士(薬学)	<a href="#">後藤 孝信</a>	生物化学・酵素工学・生物化学実験(水産化学)	寮務主事補, C4 担任
助教授	工学修士	<a href="#">小林 美学</a>	無機化学・無機材料化学・無機化学実験(無機化学)	サブネット管理者, C5 担任
講師	博士(工学)	<a href="#">竹口 昌之</a>	反応工学・基礎化学工学・化学工学実験(生物化学工学・微生物工学・生物無機化学)	C3 担任
助手	博士(工学)	<a href="#">藁科 知之</a>	材料化学実験(分析化学)	寮務主事補, 後期寮監代行

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/kyoukan\\_C.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/kyoukan_C.htm)

■非常勤講師

■学位等	■氏名	■担当教科目	■備考
	大場 康正	電子機器	国産電機(株)技術本部技術管理センター
理学博士 客員教授	三谷 哲也	物質工学総論	矢崎総業(株)技術開発センター企画部主管
客員教授	染野 哲也	生物有機化学	微生物化学研究センター 沼津創薬医科学研究所
客員教授	塚原 裕	化学製図	
	伊藤 寛文	品質管理	東レ(株)東レ総合センター

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/hi\\_joukin\\_C.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NetJpg/hi_joukin_C.htm)

(出典：本校公式ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。現在の定員配置は、きめ細かい教育を実現するためには若干不十分ではあるが、一部の科目を非常勤講師に依頼することにより、概ね適切な教員配置となっている。

**観点3-1-③：専攻科を設置している場合、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況) 本校では、専攻科専任の教員は配置しておらず、すべて準学士課程との兼務で行われているが、専攻科担当教員の資格を、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する(平成3年大学評価・学位授与機構規程第4号)第2条第1項第4号に規定する資格を有し(資料3-1-③-1)、教育研究上の能力があると認められる者とする定めている。平成16年度専攻科担当教員58名中、博士の学位を有するものは39名であり、民間企業における技術者として10年以上の経験を有し、技術者実務についての指導ができる教員は4名である。他に非常勤講師として、技術士1名が参加している。

資料3-1-③-1：短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規程(抜粋)

○短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規程

第2条 機構は、短期大学又は高等専門学校に置かれる専攻科で、次の各号に該当すると認められるものを、学位規則第6条第1項に規程する専攻科として認定する。

(一～三 略)

四 授業科目を担当する教員は、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)に定める教授、助教授又は講師の資格に相当する資格を有する者であること

(五 略)

(出典：平成3年12月25日 大学評価・学位授与機構規程第4号)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。専攻科専任の教員は配置していないが、準学士課程との連携の下、計画的に適切な人員を配置している。

**観点3-1-④：学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置(例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。)が講じられているか。**

(観点に係る状況) 本校の教員採用は、教員選考内規に基づき、校長、三主事、当該学科長、事務部長による教員選考委員会において行われ、当該学科内各教員の経歴や学科内外の年齢構成等を踏まえ、バランスの取れた人材配置となるよう配慮されている。その結果、教員の年齢構成一覧(資料3-1-④-1及び2)・経歴一覧(資料3-1-④-3)に見るとおり、これらの点においては、おおそバランスの取れた構成となっているが、女性教員の割合がやや少ない(資料3-1-④-1)。

本校教員の学位取得状況(資料3-1-④-4)は高レベルであり、深く専門の学芸を教授するという高専の目的に即したものである。また、外部研修を積極的に推進し(資料3-1-④-5)、教員の資質向上に努めている。

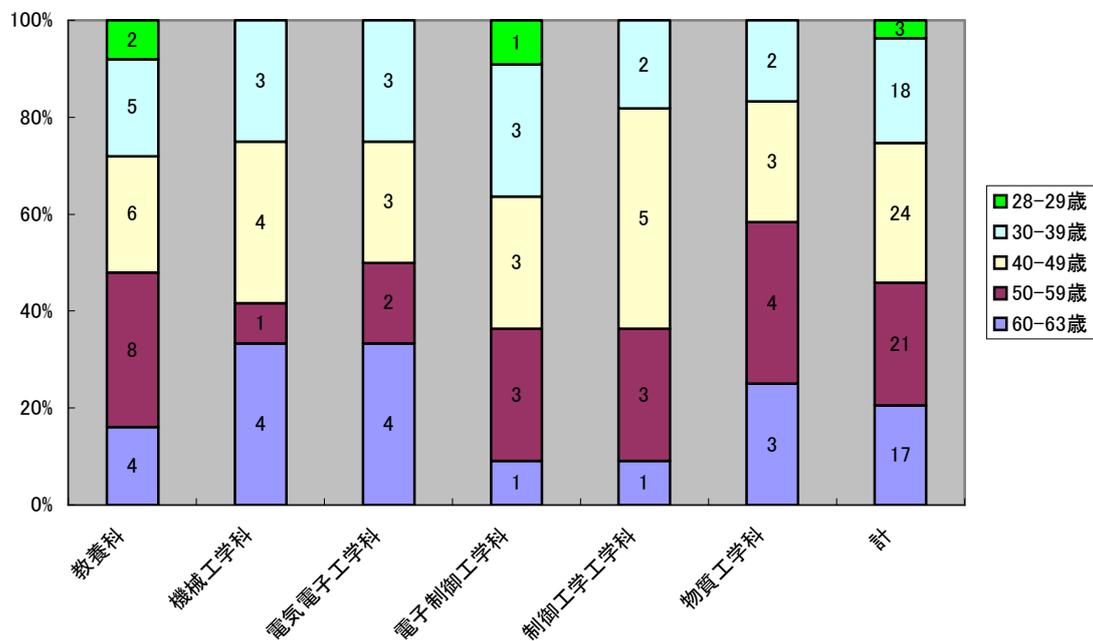
資料 3-1-④-1 : 教員の年齢構成及び女性教員数

	教養科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御工学工学科	物質工学科	計
60-63歳	4	4	4	1	1	3	17
50-59歳	8	1	2	3	3	4	21
40-49歳	6	4	3	3	5	3	24
30-39歳	5	3	3	3	2	2	18
28-29歳	2			1			3
計	25(4)	12	12	11	11	12(1)	83(5)

計の( )内は女性教員数

(出典：庶務課人事係)

資料 3-1-④-2 : 常勤教員の年齢構成



(出典：庶務課人事係)

## 資料 3-1-④-3 : 本校以外の勤務歴

	他高専	大 学	高校以下	官公庁	民間企業	自営業	海外研究	延べ人数	実人数	複数経歴内訳
教授	3人	2人	3人	1人	13人	0人	1人	23人	20人	高校以下・民間企業 他高専・民間企業 大学・民間企業
助教授	0人	6人	3人	0人	8人	0人	2人	19人	18人	大学・民間企業
講師	0人	1人	2人	0人	0人	0人	0人	3人	3人	
助手	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
教員 合計	3人	9人	8人	1人	21人	0人	3人	42人	41人	

(出典：庶務課人事係)

## 資料 3-1-④-4 : 教員の学位取得者数

## 学 位 取 得 者 数

	現員	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	教養科	合計
教授	35人	5人	2人	3人	3人	5人	3人	21人
助教授	34人	3人	3人	3人	3人	3人	3人	18人
講師	7人				1人	1人	1人	3人
助手	7人	1人		1人	1人	1人		4人
合計	83人	9人	5人	7人	8人	10人	7人	46人

(出典：庶務課人事係)

## 資料 3-1-④-5 : 平成16年度外部研修一覧表

研修会名称	場所	開催日時(期間)		参加者
		開始日	～ 終了日	
平成16年度独立行政法人国立高等専門学校機構主催高等専門学校教員研究集会	釧路東急イン	H16.7.29	～ H16.7.30	1名
平成16年度高等専門学校新任教員研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター	H16.8.18	～ H16.8.20	3名
平成16年度独立行政法人国立高等専門学校機構主催高等専門学校教育教員研究集会	ホテルメトロポリタン長野	H16.8.26	～ H16.8.27	1名
平成16年度東海・北陸地区国立高等専門学校教員研究集会	富山第一ホテル	H16.9.9	～ H16.9.10	2名
第1回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	KKRホテル東京	H17.3.22	～ H17.3.23	2名

(出典：庶務課人事係)

(分析結果とその根拠理由) 概ね相応であるが、現時点では改善の余地も残る。採用段階において経歴や年齢等を充分考慮した選考を行っているほか、採用後も外部研修等の奨励により、各教員のレベルアップに努めているが、高専機構中期計画に掲げられている「優れた教員の確保」(資料3-1-④-6)について現時点では満たされていないものもある。すなわち、本校以外の勤務等を経験した教員の割合が、教授・助教授のうち60%以上であることが求められている点(資料3-1-④-6)

④—7)、および専門科目担当教員のうち70%以上に学位を取得していることを要求している点についてである(資料3-1-④-8)。ただし、中期計画の定める年限までには目標を達成できる範囲内である。また、女性教員の数が少ないことも問題であり、ことに専門学科において女性教員を採用することが望まれる(前出資料3-1-④-1)。

資料3-1-④-6：国立高等専門学校機構中期計画(抜粋)

(3) 優れた教員の確保

① 多様な背景を持つ教員組織とするため、中期目標の期間中に、公募制の導入などにより、教授及び助教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%以上となるようする。

② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに年以上の長期にわたって勤務し、またも1との勤務校に戻ることでできる人事制度や、高等学校、大学、企業などとの任期を付した人事交流制度等について検討を進め、これらの制度を導入する。

③ 専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。中期目標の期間中に、この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%以上とし、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%以上となるようにする。

④ 中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生活指導などに関する研修のため、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。

⑤ 教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。

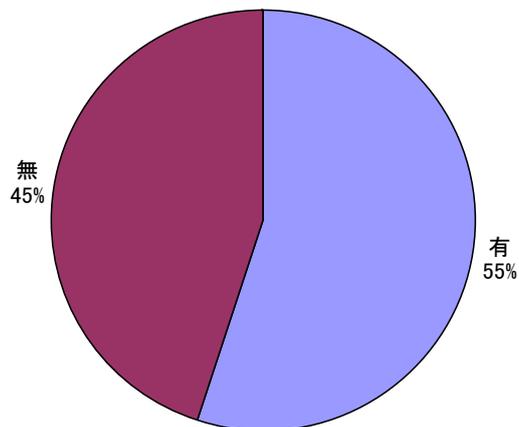
⑥ 文部科学省の制度や外部資金を活用して、中期目標の期間中に、300名の教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を設けるとともに、教員の国際学会への参加を促進する。

(出典：国立高等専門学校機構ウェブサイト)

[http://www.kosen-k.go.jp/pdf/keikaku\(H17.3.31\).pdf](http://www.kosen-k.go.jp/pdf/keikaku(H17.3.31).pdf)

資料3-1-④-7：本校以外の勤務歴

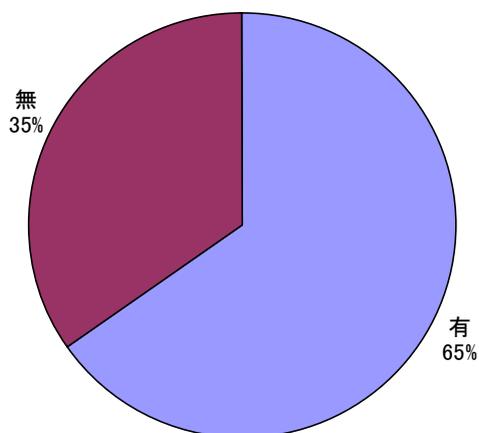
本校以外の勤務歴(教授・助教授)



(出典：庶務課人事係)

資料3-1-④-8：専門科目担当教員の学位の有無

専門科目担当教員の学位の有無



(出典：庶務課人事係)

観点 3-2-①：教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況) 教員の資格については、従来から基づいていた高等専門学校設置基準の教員資格(資料 3-2-①-1)に加えて平成 8 年に教員選考内規を制定し、選考の手続き等が定められており、その基準に基づき選考が行われている(資料 3-2-①-2)。また、採用に当たってはウェブサイト等を通じて広く公募している。採用及び昇格については、高等専門学校設置基準に則って、「採用にあたって留意すべき点」や「教員昇任判定基準」(資料は訪問調査において提示)に基づいて行われており、各科の推薦委員会の推薦を受けて選考委員会が発議し、校長が判断する。これらのことが適切に行われている。

資料 3-2-①-1：高等専門学校設置基準(抜粋)

### 第 3 章 教員の資格

(教授の資格)

**第 11 条** 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- 二 学位規則(昭和二十八年文部省令第 9 号)第 5 条の 2 に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者
- 三 大学(短期大学を含む。以下同じ。)又は高等専門学校において教授、助教授又は専任の講師の経歴(外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者
- 四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
- 五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(助教授の資格)

**第 12 条** 助教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 前条各号のいずれかに該当する者
- 二 大学又は高等専門学校において助手又はこれに準ずる職員としての経歴(外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。)のある者
- 三 修士の学位又は学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)を有する者
- 四 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(講師の資格)

**第 13 条** 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 第 11 条又は前条に規定する教授又は助教授となることのできる者
- 二 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者  
(助手の資格)

**第14条** 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者
- 二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(出典：高等専門学校設置基準)

<http://kyouiku.hourei.info/kyouiku65-3.html>

資料3-2-①-2：教員選考内規

○沼津工業高等専門学校教員選考内規

(平成 8.9.11 制定)

最終改正 平成 17.3.9

(趣旨)

第1条 本校における教員（教授、助教授、講師及び助手）の採用及び昇任（以下「採用等」という。）の選考等は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第6号）、その他法令等に特別の定めのある場合を除くほか、この内規の定めるところによる。

(採用等の発議)

第2条 各学科又は教養科（以下「学科等」という。）において、教員の採用等を必要と認めたときは、当該の学科等の長が校長に申し出る。

(推薦委員会)

第3条 校長は、前条の申し出がありこれを必要と認めたとき又は管理運営上特に必要があると認めたとき、当該の学科等に推薦委員会を設置する。

2 推薦委員会は、当該の学科等の長及び校長が指名した教員をもって組織する。

(候補者の推薦)

第4条 推薦委員会は、採用等の候補者を選定し、次の書類をもって校長に推薦する。

- (1) 推薦書
- (2) 履歴書（採用者の場合）
- (3) 教員選考個人調書
- (4) 著書・論文等一覧
- (5) 著書・論文等の概要
- (6) 企業での各部門における実績（企業からの採用者の場合）
- (7) その他校長が必要と認めた書類

(選考委員会)

第5条 校長は、推薦委員会から候補者の推薦があったとき、選考委員会を設置する。

2 選考委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）

(3) 当該の学科等の長

(4) 事務部長

3 選考委員会は、必要に応じ候補者の担当授業科目と関連する教員を出席させ、その意見を聴くことができる。

4 選考委員会は、校長が招集し、議長となる。

(候補者の選考)

第6条 採用等の候補者の選考は、選考委員会の議に基づき校長が行う。

(事務)

第7条 選考委員会に関する事務は、庶務課が行う。

(補則)

第8条 この内規に定めるもののほか、教員の採用等の選考に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この内規は、平成8年9月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から適用する。

(出典：本校規則集)

[http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0460\\_kyouinsenkou-naiki.htm](http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/kisokusyu/0460_kyouinsenkou-naiki.htm)

(分析結果とその根拠理由) 相応であるが改善の余地もある。採用や昇格等は適切に行われているが、採用にあたって留意すべき点や教員昇任判定基準(訪問時間閲覧可能)は作られているものの、より明確で適切な基準を策定すべきである。

**観点3-2-②：教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。**

(観点到に係る状況) 平成11年に自己点検・評価委員会(前出資料2-2-③-1)を設置し、各学科等・委員会等のセルフチェックを中心とした自己点検・評価活動を行っている。また、教務委員会において学生による授業評価アンケートを毎年実施していて(資料3-2-②-1)、各教員はその結果に基づき、改善点を次年度のシラバスに明記することとなっている。

資料3-2-②-1：授業アンケート実施要綱

授業アンケートの目的

- ・ アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- ・ 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- ・ 学生自身の授業に対する自覚を高める。

公表範囲

- ・ 個々の科目の基礎データ（授業毎にまとめたデータ）に関しては、学内公開とする。
- ・ 個々の学科で作成する自己点検評価書などを通じて、アンケート結果とその分析・対応などを一般に公開する。
- ・ 学内公開用のフォーマットは別途定める。

#### 実施範囲

- ・ 実験・実習・卒研などを含む全科目で実施する。

#### 評価段階と項目

- ・ 評価は「非常に良い、良い、あまり良くない、悪い」の4段階で行う。
- ・ 実験・実習系の科目で、該当しない項目については、授業担当者の指示で解答しないこととする。

#### 実施時期

- ・ 科目担当の教官が最終の授業（試験含む）時間の中で実施する。
- ・ 前期で終了する科目は前期の終わりに実施する。それ以外の科目は学年末に実施する。
- ・ 最終の授業までで行うか、試験時に行うかは、個々の教官が判断する。

#### アンケートの配布と回収

- ・ アンケート実施要綱，質問用紙，コード表，マークシート記入要綱を，教務係から担当教官に事前に配布する。
- ・ 質問用紙，マークシート記入要綱，マークシートを，アンケート実施に学生に配布する。
- ・ アンケート終了後，配布した用紙を全て回収する。
- ・ マークシートの回答は，定められた期限までに，教務係に設置したアンケート回収箱に投函する。
- ・ マークシート以外の用紙は，必要なら繰り返し利用する（教務係への返却は必要ない）。

（出典：本校規則集）

<http://nct.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/j-anc/2002/youkou.pdf>

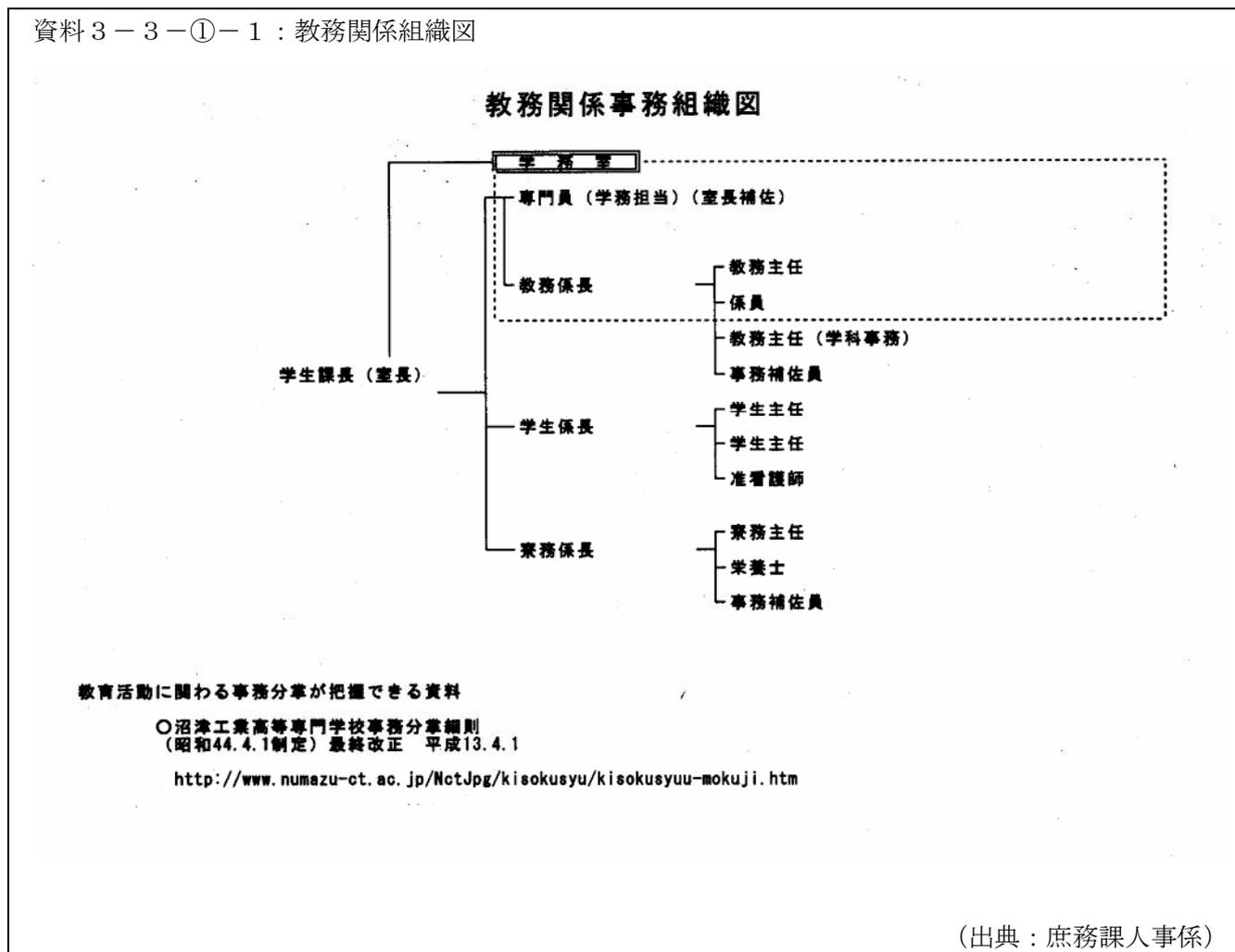
（分析結果とその根拠理由）優れている。本校の教員により自ら教育活動を評価する「自己点検・評価」，学生による教員の授業評価など多面的な点検・評価が行われている。また，この授業評価に基づく各教員の改善点をシラバスに明記することにより，授業改善に対する意識をより明確のものとさせている。

#### 観点 3-3-①：学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点到る状況）事務組織では，授業等教育を実施するための支援組織として学生課を配置している（資料 3-3-①-1 及び前出資料 2-2-③-6）。教育課程の支援は主に学生課教務係で行われており，例えば，定期試験の時間割を組むこと，教科書の注文の取りまとめ等がある。また，各学科において実施されている実験・実習については，庶務課実習調整係を設置し，技術職員による教育活動の支援を行っている（資料 3-3-①-2）。尚，教育活動への多面的支援を行うために技術職員の更なる一元的組織化を検討している。

資料として事務系職員の人員配置表を添付する（資料 3-3-①-3）。

資料 3 - 3 - ① - 1 : 教務関係組織図



資料 3 - 3 - ① - 2 : 実習調整係分掌

**実習調整係担当事務(内線5798/[koujou@numazu-ct.ac.jp](mailto:koujou@numazu-ct.ac.jp))**

- 実習工場における実習の準備及び実習指導の補助調整
- 実習工場の施設及び設備の保守管理
- 実習用諸材料の準備及び保管
- 実習工場の安全保持
- 教室系職員の連絡調整

(出典：本校公式ウェブサイト)

<http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/office/bunsyou.htm>

資料3-3-①-3：事務系職員配置表

### 事務職員，技術職員の配置状況

	事務職員	技術職員	栄養士	准看護師	自動車運転手	事務補佐員	学生支援コーディネーター	司書(内数)	司書補(内数)
事務部長	1								
庶務課	課長	1							
	専門職員	2				2	1		
	庶務係	2			1				
	人事係	3							
	図書係	2							1
	実習調整係		5						
	教室系技術職員		11						
会計課	課長	1							
	専門職員	1							
	総務係	2							
	出納係	3							
	用度係	3							
	施設係		2			1			
学生課	課長	1							
	専門員	1							
	教務係	4				1			
	学生係	3		1					
	寮務係	2		1		1		1	
計	32	18	1	1	1	5	1	1	

※ 実習調整係長は、教室系技術職員へ含めた。  
 ※ 司書、司書補は、事務職員の内数である。  
 ※ 教育後援会職員は含まない。

(出典：庶務課人事係)

(分析結果とその根拠理由) 相応であるが、昨今の定員削減問題に鑑みて、技術職員の一元的組織化による効果的な活用方法は現在検討中であり、更なる改善の余地はある。

#### (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 学生による授業アンケートを毎年実施し、その結果を全教員にフィードバックしている取組みは、教育活動の対象である学生の意見を直接把握し、改善に結び付けることができる点で優れている。

(改善を要する点) 平成16年度からの高専機構中期計画で求めるところの優れた教員の確保に関する条件に若干満たされていない点があること。また、教員の採用及び昇任の基準について、より明確で適切な基準を策定する必要があること。更に、技術職員の一元的組織化は検討中であり、現在のところ更なる効果的活用の余地を模索している。

#### (3) 基準3の自己評価の概要

本校の教員は、一般科目担当・専門科目担当ともに、本校の教育目的を達成するために概ね適切に配置されているが、常勤教員の定員の関係上、よりきめ細かな教育を実現するために、一部を非常勤講師に頼っている。また、専攻科については、専任の教員は配置しておらず、すべて準学士課程との兼務で行われているが、大学評価・学位授与機構の定めるところの資格を有する教員が適切に配置されている。

教員の採用については、年齢構成・学位の取得等の条件を鑑み、高等専門学校設置基準に則り適

切に行われている。教員の昇格に関することも合わせて、その手続きについては、教員選考内規により明文化されている。基準についても作成されているが、より明確で適切な基準を策定すべきである。

さて、平成16年度に示された高専機構中期計画にある「優れた教員の確保」の求めるところに対して、学位取得者の割合・本校以外の勤務経験を有する者の割合が、現在のところ若干低いところにあるが、中期計画の定める年限までには目標を達成できるものと思われる。ただし、近年の高専における女子学生の増加に対して、その精神面でのサポートの必要性等も含めて、女性教員の重要性は周知のことであるが、現実には83名の教員のうち、女性教員はわずか5名であり、この点は改善努力が望まれる。

教員の教育活動に関する評価としては、自己点検・評価委員会が設けられており、各学科あるいは各委員会等でセルフチェックを中心とした自己点検・評価活動を行っている。また、教員の授業に対しては、学生による授業評価アンケートを毎年実施しており、そのアンケート結果は学内で公表され、各教員はそれに基づき改善点を次年度のシラバスに記載することになっている。

教育課程を展開するに必要な事務職員・技術職員等については、事務職員は主に学生課に、技術職員については各学科に教室系職員が、実習工場に実習調整係が適切に配置されているが、昨今の定員削減問題に鑑みて、技術系職員の更なる有効的な配置を検討している。